令和4年度　西東京市立碧山小学校　　学校評価表

学校教育目標	◎自分でよく考え工夫する子　　○ねばり強く前向きに取り組む子　　○人の立場に立って行動する子
目指す学校像	プロの集団　チーム碧山！子どもの「やる気」育てます！ 子どもが生き生きと前向きに活動でき、保護者・地域から信頼される学校
目指す児童像	・課題解決のため、主体的に考え創意・工夫する子　　・物事を前向きにとらえ、積極的かつ粘り強く取り組む子 ・人とのかかわりを大切にし、力を合わせて活動する子
目指す教師像	・探求的・問題解決的な学習を実践し、子どもの自己解決力・学ぶ意欲の向上を図ることができる教師　・不断の向上心を持ち、前向きに工夫・改善を目指す教師 ・一人一人の子どもを大切にし、子どものわずかな変化を見落とさない教師　・学校組織の一員として協力・協働して取り組む教師　・使命感と誇りをもち、子ども・保護者・地域から信頼される教師

方策		前期学校自己評価			前期学校関係者評価		後期学校自己評価			後期学校関係者評価	
		努力目標	成果目標	学校の取組及び改善策	評価	記述欄	努力目標	成果目標	学校の取組及び改善策	評価	記述欄
確かな学力の向上	GIGAスクール構想の推進に向けて、タブレット端末の活用を図ることができたか。	3	3.6	タブレットを使用して2年目に入った。７月と9月に、オンラインドリルを行った。１年生ではタブレットの使用方法やルール、マナーを指導し、保護者にもプリントを配布して周知に努めた上で実施した。2週間おきに朝活動の時間にタブレット学習を取り入れた。調べ学習で検索をしたり、教師が作成した教材をラインで話し合いをしたり、写真機能を使って観察記録を撮ったりと、機能を生かした学習にも取り組んだ。	3.9	IT機器の活用は必須である。モラルについての教育の徹底が必要で、よい使い方を指導してほしい。タブレットの活用で調べ学習が楽しく深く学べるが、本来の読み・書き・計算のスキルを身に付ける時間も大切にしたい。保護者アンケートで「できた、よくできた」が80%で成果が出ている。	3	3.9	スマホ安全教室などを通して、モラル学習を行い、電子機器を使った正しいコミュニケーションの取り方を学習した。冬休みにeライブラリ（ドリル学習）を利用し、宿題を出す学年があるなど、学校だけの学習にとどまらず、家庭学習のツールとしても使った。委員会活動などで、集会や朝会をオンラインで行い、発表する委員会があった。	4	タブレットを使用することが普段の学習や生活で浸透している。一方で、アナログとの使い分けが今後の課題であると考えられる。また、リスク教育も大切である。保護者アンケートで肯定的な評価が72%で成果が出ている。
	地域の教材、人材を活用したり、体験的な活動を取り入れたりして、問題解決力の向上を図ることができたか。	3	3.1	１年の学校探検、２年の町探検、３年の地域探検、４年の地域安全マップ作り、５年の米づくり、６年のみどりキーパーの取組など、社会科・生活科・総合的な学習の時間の活動を通じて、問題解決的な学習に取り組んだ。さらに、研究的な視点で、主体的・対話的で深い学びの充実を進めていく。	3.8	地域防災、米作りの取組は大変勉強になるので今後も続けてほしい。体験学習の経験は価値があるので、各学年で活動を積み重ねていけるとよい。目的意識をしっかりもって取り組んでほしい。保護者アンケート75%、よく取り組んだ成果が表れている。	3	3.8	碧山森の活用や近所の農家と連携し収穫体験での食育の学習、町探検でのインタビュー、パルシステムの出前授業で脱穀体験、下野谷遺跡のＶＲ体験や土器を間近で見る活動、戦争体験を地域の方から聞く活動等、知識だけではなく、身近なところから問いを立て、問題解決的な学習に取り組み、自分事として捉えることにつながった。	3.9	学校で色々な体験をすることは、貴重であり、大切である。今後も、工夫して地域との関りを増やしていってほしい。そして、体験の幅と質が積み重なるようにしていってほしい。家庭状況に左右されない経験を学校でできることがありがたい。保護者アンケートで肯定的な評価77%で成果が出ている。
豊かな心の育成	いじめをしない、させない集団作りを行うとともに、差別や偏見をもたせない学級経営、学年経営を行うことができたか。	3	3.3	本校の教職員は、いじめは絶対にいけないことであると自覚し、普段から児童にも指導してる。児童がいじめを訴えてきた場合や、教員がいじめではないかと疑問に思った場合は、原則として複数の教員で関係する児童全員の話を聞き、指導に当たる。また、本校に設置しているいじめ防止委員会に報告し、対応を協議する。内容によっては保護者に通知するとともに、その後も経過観察を行い、再発防止に努めている。	3.8	子どもたちが友達を「さん」づけで呼び、相手を尊重する姿がうかがえる。いじめ防止委員会が今後も十分に機能することを願う。「いじめる」児童の背景を見て課題解決を図れるとよい。「いけない」ことをする理由があると思う。保護者アンケート61%は妥当な評価と思われる。	3	3.7	いじめが発覚した際は、3日以内にいじめ虐待防止校内委員会を開くなどして対応を協議し、聞き取りや児童への指導、保護者への報告等を行い、解決することができた。また、報告後も被害・加害の児童に声をかけることを徹底している。このように組織としていじめに対応し「いじめ問題未解決ゼロ」を目指している。	3.9	いじめ防止の体制を整えているのは安心感がある。SNSでのいじめが起こらないようなネットリテラシーにも注力してほしい。保護者アンケートで肯定的な評価が65%となっているが、分からないの項目も23%となっており、妥当な評価と思われる。
	「西東京あったか先生」に沿った指導で、児童・保護者から信頼されるように努めることができたか。	3	3.3	西東京市では一昨年度から、「あったか先生」の6項目（ホームページ参照）に基づいて指導に取り組んでいる。教職員で人権の研修を行ったり、指導方法についてお互いに教え合ったりしながら、児童一人一人を大切にする取組を行っている。また、児童が相談しやすいように、児童から言いに来るのを待つだけでなく、教師からも積極的に声掛けをしたり、話しやすい雰囲気を作ったりするなどの環境を整えるようにしている。	3.7	忙しい先生方が子どもたちによく目を配れるように、教員数も充実することを願う。「悪い」ことをした児童に対して毅然とした声掛けは必要と思うが、子どもの言い分もよく聞いてもらいたい。保護者アンケート66%は、妥当な評価と思われる。	3	3.2	年間を通じて、毎週火曜日に、「西東京あったか先生」のミニ研修を行ったことで、教職員が、児童への言葉かけを意識して指導にあたることができた。児童による「あったか先生アンケート」では、どの項目も85%以上の肯定的な評価を得ることができた。毎月チェックリストを活用することで、様々な面から教職員に服務事故防止に向けた意識付けを行うことができた。	3.8	「あったか先生」は、知っているが、どのような活動をしているのかが分かりにくい面がある。子どもへのアンケートで肯定的な評価が高く成果が出ていると感じた。肯定的な評価が６３%となっているが、分からないの項目も２５%となっており、妥当な評価と思われる。
	元気な挨拶、「はい」という返事を大切にし、基本的生活習慣の定着を図り、きまりを守る児童の育成に努めることができたか。	3	3.2	校内では教員からすすんで挨拶をしたり、「あいさつ・グッドウォーク運動」を設定して挨拶を推進したりしている。挨拶が少ないことに危機感をもった代表委員が、毎朝、挨拶運動を実施し、挨拶をしてくれた人数を計測して挨拶を増やす取組を行っている。目標人数の150人を超えたかを給食の放送で流し、全校児童に啓発している。	3.9	子どもたちは元気に生活しているように感じる。廊下の歩き方が良いと「good」なのはとてもよいと思う。碧山小の子どもたちは元気よく挨拶する。しかし、人数を目的にしてしまうと本来の意味がなくなるのでは。あえて「運動」をしない期間を設け、定着度を後日考えるのも大切なのではないか	3	3.4	スタートアッププログラムにそって、学校での決まりや基本的生活習慣を学ぶ学習を行った。高学年が率先して挨拶することで、学校全体で挨拶しようという気持ちが高まるのではないかと話し合い、自ら考えたことを実践した。育成会の方に協力していただき、挨拶啓発運動を行った。また、挨拶・グッドウォーク運動週間を設け、啓発も図った。	3.9	「元気なあいさつ」は社会に出ても大切な習慣である。人付き合いの入り口である。あいさつは、目的ではなく手段であることも伝えていきたい。また、不審者対応とあいさつとの兼ね合いも今後考えていきたい。保護者アンケートで肯定的な評価７５%で成果が出ている。
健やかな体の育成	体力テストの課題運動を体育の導入に位置付けるなど、児童の体力向上を進めることができたか。	3	2.1	ここ2年間で、児童の体力向上のために行ってきた長縄集会やマラソン集会など運動系の集会がなくなったことや、運動会が体育授業参観になったこと、体を動かす行事が縮小されたことで、全校児童が積極的に体を動かす機会が減ったことが挙げられる。6月に実施した体力テストの結果では、全体的に全国平均並みであったが、ボール投げで課題が見られたため、体育の導入等で今後、継続的に取り組んでいく。	3.2	コロナ対応もあり、制約が多いと感じる。体育の学習でボール投げを導入してほしい。外で遊んでおり、保護者アンケートで７０%と良い評価も出ているので、もっと評価してもよい。家庭でも外遊びの機会が減っているので校庭開放などを活用して外遊びを啓発してはどうか。もう少し教員の評価が高くてもよいのでは。	3	2.8	体力テストで課題のあった投力の育成に向けて、体育の授業で運動を取り入れる。体育委員会が、中休みや昼休みを活用し、全校の児童に運動を促す企画をした。また、5年生では、プロコーチ派遣教室でラグビーのプロコーチを招き、タグラグビーを教わった。今後「子供を笑顔にするプロジェクト」で、パラアスリートを招く予定である。	3.3	コロナ禍の中、学校は様々な機会を作り努力している。一流のアスリートと触れ合う機会はとても意味のあることである。今後も続けてほしい。身体を動かすことが頭にも良い影響を及ぼすことを啓発していった方が良い。保護者アンケート６４%は、低いのではないかいと思う。
	児童の食物アレルギーに細心の注意を払うとともに、特別支援教育の充実を図るため、具体的な方策をもつなど保護者と協力して支援することができたか。	3	3.5	食物アレルギーに関する研修を年３回行い、教職員がアレルギーに対する意識を高めて、正しい処置方法を身に付けられるようにしている。特別支援教育については担任だけでなく、学年や校内で体制を組んで、組織的に取り組むようにしている。今後もそのやり方を継続していく。	3.8	「アレルギー」に対する知識をもつのはよいこと。よく取り組んでいる。授業時間中にうろうろしている子を見ると残念に思う。特別支援教育が個々の児童にマッチするよう願っている。保護者アンケートも70%とよい数字だった。	3	3.9	給食による食物アレルギーの発症がないよう教職員全体で発生防止に努め、日々の給食のアレルギーチェックを行っている。特別支援教育については、毎週特別支援教育校内委員会を設け、関係教職員で個々の児童への支援について協議し、組織的に取り組んでいる。また、外部講師による特別支援教育に関する研修を行い、教職員の育成も行った。	4	アレルギー対応をしっかりとおこなっていることが、安心・安全につながっている。今後も続けてほしい。特別支援教育は、今後ますます必要になってくると考えられる。組織で取り組んでいることが評価できる。
開かれた学校づくりの推進	地域の人材を積極的に活用し、保護者や地域が学校に寄せる思いや願いを受け止め、すばやい対応・親身の指導を日々行うことができたか。	3	3	新型コロナウィルスの感染拡大防止に努めつつ、４月に保護者会・個人面談、５月に体育授業参観、６月に保護者学校公開週間を行い、開かれた教育活動の推進に向け取り組んだ。また、外国語活動で地域の方に授業支援に入っていただいたり、セーフティ教室で防災教育について指導していただいたりした。	3.9	コロナ禍において、難しい状況を工夫してくれている。よく取り組んでいる。様々な面で外部の人たちが参加できると思う。公開授業も楽しかった。コロナでなかなか実施が難しいと思うが、学校公開を更に進めてほしい。子どもの様子、先生の授業を見たい。	3	3.1	引き続き、新型コロナウィルスの感染拡大防止に努めながら、学校をできる限り公開し、開かれた教育活動の推進に向け取り組む。10月に道徳授業地区公開講座、11月に音楽授業参観、1月に1週間の保護者学校公開週間を行った。コロナ禍で様々な制約がある中、工夫をして実施することができた。	3.8	10月の道徳授業地区公開講座で、保護者の関心の高さを感じた。音楽授業参観もとても良い時間だった。ご家族も楽しんでいる様子が伝わってきた。積極的に公開してほしい。
	学校便り・学年便り・学校ホームページ等を通じて情報発信に努め、教育活動に対する保護者や地域の理解を深めることができたか。	3	3.1	.学校便りと学年だよりは月初めに１回、ホームページは週３日程度は更新して家庭への連絡に努めている。緊急の場合は、一斉メールを配信している。また、長期欠席の児童にはタブレットを通して学習する取組も考えている。紙ベースとタブレットベースのそれぞれの長所を考えて今後も活用していく。	3.9	学校便りを定期的に送ってくれているので、学校の様子がよく分かる。学校便りは見ているが、HPはなじみがない。学校からの働きかけが多様なことは、不登校の児童・家庭にとって安心だと思う。個々に応じた働きかけをお願いしたい。	3	2.7	引き続き、学校便りと学年だよりは月初めに１回、ホームページは週３日程度は更新して家庭への情報提供に努めていく。緊急の場合は、一斉メールを配信している。長期欠席等の児童にはタブレットを通して学習する取組も進めている。今後も発信を続けていく。	3.9	紙ベースやネット、メール等で情報発信をし、良くやられていると思う。ホームページの更新、メールの一斉送信の活用はありがたい。2.7は低い。もっとできている。
働き方改革	仕事の効率化を図り、時間外労働を減らすことができたか。	3	1.7	教員の仕事は、学習指導、学級経営、行事の企画推進などがある。そのために、計画、準備、指導、評価、学年間の意思疎通、研修などを行い、児童が様々な力を身に付けられるように工夫している。また、お便りや電話などを通しての保護者への連絡交流なども行っている。ほとんどは授業が終わった後に行うので、学年でできる仕事は分担するなどしているが、効率的にするためにはまだ工夫の余地があると考える。今後も努力が必要な課題である。	3.6	全国的な教員不足の状況下で、先生の人数が絶対的に足りない。先生の仕事は大変だと思う。スクールサポートスタッフの活用をしているが、教員のサポートにもっと予算をつけてよい。個々の学校や教員の工夫・努力だけでは解決しない。	3	1	校務支援システムやタブレットの活用で業務のスリム化は図られつつあるが、全国的な人員の不足により、教員一人一人にかかる負担が大きくなってしまった。子どもを第一に考えた業務改善を今後も進めていきたい。	3.3	学校は、頑張っている。学校の努力だけでは中々改善が難しい。とにかく、先生の数が増えてほしい。足りない人数での業務では無理がつのる。人手不足の中、前向きに対応していただき感謝したい。